

神奈川県自然公園だより

(財)神奈川県公園協会 自然公園課 (〒231-0015 横浜市保土ヶ谷区花見台4-2 TEL045-211-5483 FAX045-338-1866 <http://www.kanagawa-park.or.jp/>)

山岳スポーツセンター 【秦野市戸川1392 TEL0463-87-9025】



11月5日(日)にアウトドアクッキングとして、青竹ごはん・飯ごう炊さん体験教室を開催しました。20名(大人9人、小学生5名、幼児6名)の参加者は青竹の器作りから竹の箸作りを行いました。慣れない手つきで四苦八苦しておりました。ご飯がたけるまで火の面倒と時間を利用して竹細工、焼き芋作り、豚汁作りと参加者が協力しておいしいご飯が出来ました。

このイベントは自然とのふれあい、そして山岳スポーツセンターを利用してもらうことで企画しましたが、参加者からまたやって欲しいと大好評でした。(丹生)

陣馬自然公園センター 【相模原市藤野町佐野川659-3 TEL0426-87-5270】



12月:22日の夕方から降り出した雪も明け方には雨に変わってしまいましたが、センター周辺の冬枯れの山々はうっすら雪化粧となりました。陣馬山頂では12月ほど積もり、訪れた登山者はまばゆいほどの雪景色に感動していました。屋頂には気温も上昇し、積もった雪も消えてしまいました。

冬晴れの日が多く続き毎週末には臨時バスが運行され、忘年山行の小グループや家族連れが多く訪れました。陣馬山は傾斜が比較的緩やかなため気軽に登れるのが魅力です。しかし、山は危険な所でもある、ということを知ることも大切です。この時期の登山道の様子や日没の時間などを確認することが必要です。また、朝晩の登山道は霜柱をサクサク踏みしめ山頂をめざし進みますが、日が当たって霜柱が溶けると、厄介なことに足元がぬかるみ傾斜のある山道では滑りやすくなります。

大晦日、陣馬山頂からの初日の出を楽しみに、例年なら500人も訪れる登山者も今年はやや少なめとなりました。穏やかな天気にも恵まれ最高の初日の出を見て、みなさん大満足で下山しました。

1月:山からサル(群)が降りてきて畑の野菜や道路脇に熟して落ちたカキを拾い、道路を横切り冬枯れの山に去ってゆきます。

葉も枯れ落ちたツルに垂れ下がったカラスウリのオレンジ色の実が私たちの目を引きまします。

今年も陣馬山頂から眺める富士山をはじめ、大菩薩嶺・金峰山・江ノ島・東京ドームなど360度の景観を楽しみに多くの登山者が訪れることでしょう。(荒井)



シモバシラ(シソ科の植物)
茎からしみ出た水分が凍ったもの
陣馬山頂付近で見られる

宮ヶ瀬ビジターセンター 【清川村宮ヶ瀬940-15 TEL046-288-1373】



フジの種

冬枯れの景色、葉が茂っていた頃には気付かなかったものたちが、目に飛び込んできます。それは様々な木の実・草の種子。枝にからまり垂れ下がっているフジの実、大気が乾燥するのを待っているようです。乾燥は、女性にとっては美の天敵!ですが、フジにとっては子孫を残すための大切な現象です。乾燥すると、フジのさやはパンツとはじけて種を遠くまで飛ばします。そして10数メートル離れた地面の上に種が散らばっていることも。よくここまで飛ばしたなあ!と

感心してしまいます。このように、種子をはじき飛ばすような方法を自動散布といえます。

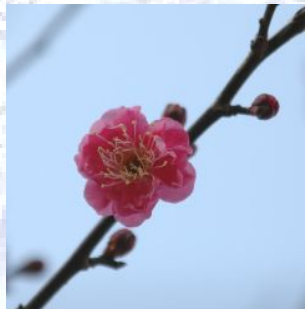
一方、風に運ばれるのを待っているコボタンツルやアザミの種は、寒風が吹くとフワフワと綿毛を揺らしながら空中を泳ぐように移動していきます。どこへ運ばれるかは風まかせ。風散布型の種子は、行き着く先で定着出来ない可能性が高く、体が軽いため栄養もあまりなく、芽ばえる可能性も低いようです。そのため、たくさんの兄弟(種子)が作り出されます。

地中に根を張り動くことの出来ない植物は、実は様々な方法で子孫を残そうとしています。今回ご紹介したのは、そのほんの一部です。他にどんな方法があるのか、植物たちを観察して推理してみてください。もちろん、ビジターセンターでも推理のお手伝いをさせていただきます。(長澤)



コボタンツルの種

秦野ビジターセンター 【秦野市堀山下1513 TEL0463-87-9300】

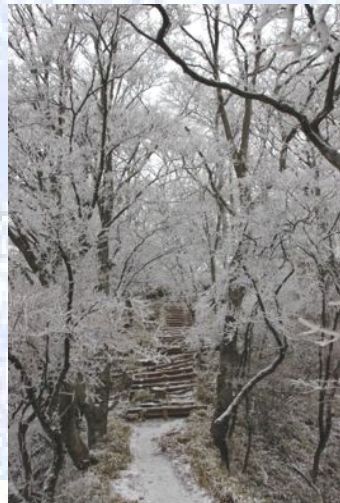


新年に入り、暖かな日々が続く、秦野戸川公園内では、なんとも梅の花が1つ2つ、足元にはオオイヌノフグリなどの春の小さな花が咲き始めてきました。そんな1月とは思えない陽気に浸っていた1月14日、秦野ビジターセンターの周辺で初雪です!粉雪のように小さな雪の粒が木々の葉や地面に白い模様を描いたのです。ようやく冬らしい気候となってきたようです。

そして山の上では、冬の芸術がお目見えです。木々を真っ白に染め上げる「霧氷」。大倉尾根では、標高900mを過ぎたあたり

りでは小さく足元の草木くっついていたり氷や雪が、標高1300mを越えると、木々も足元の草も、もうあたり一面が純白の世界になっていました。木々の芽も氷に包まれ、風が吹くとパキパキとガラスが割れるような音が響きます。こんなに厳しい世界で植物たちが生きていることに感動してしまいます。眺望はあまり望めませんでしたが、粉雪が降る中、ここまで登ってきてよかったと感じさせてくれました。

秦野戸川公園では梅の花が咲き始め、山の上では氷・雪・風の芸術が現れ、春と冬が一気に来ているような奇妙な季節感です。しかし、冬はまだまだこれからです。今回も塔ノ岳山頂付近では気温は-4℃前後(尊仏山荘の方の話より)。山頂付近にかかわらず登山道は、足元の水分や雪が凍りついておりとても滑りやすくなっています。アイゼンなど冬装備を必ず準備をし、冬の丹沢を楽しんでください。(篠島)



霧氷の中を歩く

丹沢湖ビジターセンター 【山北町玄倉515 TEL0465-78-3888】



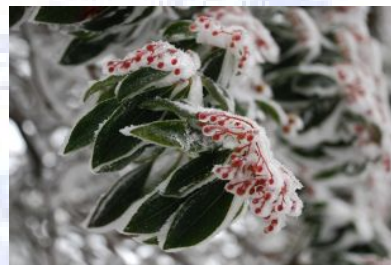
凍った生態園の池

冬になると、丹沢湖周辺は路面が凍結するほど、気温の下がる場合があります。国道246号線を丹沢湖方面に走っていくと、車の窓ガラスがくもり始め、気温が段々と下がっていくのを感じます。特に冷えるなあと感じる朝は、ビジターセンター生態園の池に氷がはっています。池の中にはヤゴなどの生きものがいたはず、と思いつながりのぞき込んだりします。水温がどのくらいなのか、氷の溶けた池で水温を測ってみると、なんと1.5℃!凍っていたので当然と言えば当然の水温ですが、厳しい環境の中で生きていくことのできる生きものたちは、やはりたくましいなあ、と感心してしまいます。



霧氷のブナ

その中でも特に感心するのは、動くことのできない植物です。雪が積もったり、冷たい強風が吹き荒れたりするのにもかかわらず、じっと耐えて春がやって来るのを待っています。冬山を歩いていると、霧氷に包まれた木々がそのたくましさを見せてくれました。(村上)



霧氷のアセビ

西丹沢自然教室 【山北町中川867-2-9 TEL0465-78-3940】

「冬季西丹沢の登山道パトロール」

1月12,13日に山岳救助隊と合同で登山道のパトロールを行いました。同行したのは他に丹沢湖ビジターセンターの2名、かながわパークレンジャーの3名でした。ルートは西丹沢自然教室(檜洞丸(宿泊)~蛭ヶ岳~丹沢山~塔ノ岳~尊仏ノ土平)でした。1日目は雨、2日目は雪だったので、三連休にも係わらず出会う登山者はあまりいませんでした。

今年は1月にしては積雪の少ない年です。主稜線でも積雪は1cmしかなく、登山道に残雪はほとんどありませんでした。山の上は気温が氷点下になるので、雨や雪、雲の水分が木の枝につく「霧氷」がきれいでした。枝全体が白く縁取られ、日が差すと輝いて豪華に見えます。近づいてみると、水滴のように凍った中に冬芽が閉じ込められていて、この時期ならではの不思議な発見があります。

今回は積雪は少なかったものの、木道やはしごの凍結があるためアイゼンは必要でした。冬季に登山をする方は、防寒具やアイゼンなどの冬山装備をしっかりして安全登山をお願いします。(倉持)

